

---

◇内 田 清 文 君

○議長（澁谷俊二君） 次に、4番、内田清文君の一般質問を許可いたします。内田清文君、登壇願います。

（4番 内田清文君 登壇）

○4番（内田清文君） おはようございます。

通告に基づき、一般質問いたします。

1つ目、モンベル秋田美郷店を誘致した効果についてです。

先日のニュースで、先月8月25日ににかほ市がモンベルと拠点施設整備に関する基本合意書を締結したと報道されていきました。2019年8月に包括連携協定を締結し、豊かな自然を生かしたアウトドア活動の推進を通じ、地域の活性化を図るための協議を重ねてきたそうです。この拠点施設は、にかほ市にある道の駅象潟「ねむの丘」に整備されると計画されており、延べ床面積で約500坪とされています。モンベル直営店の販売スペースは300坪超で、当町のモンベルよりも50坪ほど広く、残り約200坪でビジターセンターや体験ブース、アウトドア用品レンタルを行う計画で、令和5年度の完成を目指しています。

さて、当町にモンベルを誘致する際には、人の流れを生み、そこから町なかや自然資源に誘導し、経済効果を生み出したいとのことでした。モンベル秋田美郷店のオープンが今年の8月27日でしたので、はや1年が経過したわけですが、この1年でどのような経済効果があったのでしょうか。

また、モンベルとの関連もあって平成31年に策定された美郷町観光振興計画ですが、現在の進捗状況を伺います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

モンベル秋田美郷店を誘致した経済効果についてですが、まず、モンベル秋田美郷店への来客と売上げの状況について会社側に確認したところ、具体的な数値は公表できないものの、当初の想定を上回る来客と売上げがあり、現在も大変盛況である旨伺っております。

モンベルの出店により美郷町にもたらされた経済効果については、シンクタンクなど経済効果を把握する知見とノウハウがある団体に調査をお願いしておりませんので、町として明確な数字を申し上げることができませんが、出店効果を把握する一つの指標として道の駅の入り込み客数を見てみると、今年の4月から8月の月平均が2万9,000人だったのに対し、モンベル出店後の9

月には約1万5,000人増の4万4,000人となっているほか、道の駅の売上額については、モンベル出店前の4月から8月の月平均売上額が1,400万円だったのに対し、出店後の9月には約700万円増の約2,100万円となっており、出店効果が現れているものと考えております。また、美郷町の認知度向上に係る広告効果もモンベル出店は確実に有しているほか、町民が美郷町を語る際の特徴の一つになるなど、プライスレスの効果も発揮しているものと認識しております。

さらに、今年度からは道の駅美郷の観光情報センターにまちナビカードを設置し、観光客を町内周遊へつなげるための取組を進めておりますが、こちらは8月末時点で4,200枚ほどの利用があり、新型コロナウイルス感染拡大という特殊な状況下ではありますが、モンベル出店と相まった、町内への周遊及びそれに付随する経済波及の効果も発揮しているものと考えております。

次に、美郷町観光振興計画の現在の進捗状況についてです。

観光振興の基本方針ごとにお答えします。

まず、地域資源とニューツーリズムのネットワーク化に関する取組についてですが、山岳フィールド整備として、七滝山登山道への誘導標柱や休憩ベンチの設置、急傾斜地への階段設置を行っているほか、県との連携により、真昼山各登山口への大型案内看板、各登山道への誘導標柱設置などを行っております。

また、体験型・滞在型観光の確立に向けたモデルルートの構築については、今年度中に町内観光資源を活用したモデルルートを策定し、来年度から広く周知してまいりたいと考えており、まずは、夏季のモデルルートとして、登山と清水巡りをメインとしたモデルルートを設定したところ です。

来月にはJALのモニターツアーを開催する予定で、そこで外部意見としてご評価をいただき、モニタリングしてまいります。

次に、観光客受入れ体制の構築に関する取組についてですが、観光人材の育成を目指し、今年度より美郷町ネイチャーガイド認定に向けた講習会を開催しております。

また、民泊をはじめとした宿泊施設の整備に関しては、アフターコロナを見据え、民泊等の意識啓発に、実体験・立ち上げから運用までを主旨としたセミナーを実施しているほか、新たな観光スタイルへの対応として、六郷温泉あったか山コテージへのWi-Fi設置を予定しており、設置に係る補正予算を本定例会に提出しているところです。

また、情報共有と受発信体制の構築に関する取組については、町内3か所にデジタルサイネージを設置し、情報発信を行っているところです。今年度は、観光情報を一元化するための観光情報データベースを構築し、情報共有と併せて、さらに効果的な情報発信を構築する予定です。

こうした観光振興計画の推進については、地域資源活用協議会を設置し、町内の有識者からご意見を聴取しながら進めているところで、おおむね計画どおり進捗しているものと認識しております。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

次の質問に移ります。

○4番（内田清文君） 質問2問目、モンベルに関連したにかほ市との差別化についてです。

美郷町観光振興計画では、宿泊して体験型レジャーなどを楽しむ滞在型観光が目指されています。観光を考える上で大切なキーワードは固有性だと思います。観光とはその字のごとく「光を観る」ものであり、観光客とはその意味で過ぎ去る人たちです。つまり、美郷町にそれほど興味がない。そういう方々に美郷町に来てもらい、滞在してもらう必要がある。

観光の行き先を考えるときに、何を見るか何をやるかを考えてから、それができる場所を考えたいと思います。つまり、何を見るか何をやるかの「何」に固有性がないと、目も留めてもらえません。さらに、宿泊させるということは、観光客を疲れさせる必要があります。そうでなければ、美郷町で観光してほかに宿泊されてしまい、滞在型観光にはなりませんし、疲れさせるということは、そのくらい魅力的なアクティビティーが必要となります。つまり、滞在型観光には固有性のあるアクティビティーが必要であるということです。

この美郷町観光振興計画には、滞在型観光を具体化した5つのモデルルートが提案されています。幾つかピックアップして紹介しますが、七滝山を体感するルートでは、名水市場湧太郎を起点に自転車で六郷地区の湧水を数か所巡り、七滝山山頂を目指します。自転車で10キロほど走った後で七滝山を登山するものです。美郷の歴史・文化を学ぶルートでは、町内農家で農作業を体験し、農家民宿に宿泊。坂本東嶽邸の見学や歴史民俗資料館でのわらの体験、寺町通りや佐藤家蔵を巡ります。

今のモデルルートを聞いてぜひ体験したいと思った方は、ここにどのくらいいらっしゃるでしょうか。美郷町のファンであれば、モデルルートなどがなくても勝手に観光していつてくれると思います。しかし、多くの観光客は、美郷町が好きな人でもなければ、体力がありサイクリングが好きでもない普通の人だと思います。そういう人たちに対して、モデルルートのアクティビティーはそれほど固有なものでしょうか。どこにでも歴史や文化はありますし、日本の至るところに湧水はあり、山があります。この意味では、残念ながら今の美郷町に、滞在して宿泊してまで楽しみたいと思わせるほど訴求効果のある固有なものはないように感じます。例えば、それほど有名でない町の歴史を知りたいと思いますか。それほど有名でない町で、ありがちなアクティビ

ティーをしたいと思いますか。場合によっては、町民でも体験したくなるような何かが必要だろうと思います。

検索エンジンで「カヤック 東北」で検索すると、ランキングの上位に田沢湖が出てきます。皆さんもご存じのように、仙北市は観光でも全国的に有名です。にかほ市には鳥海山もある。日本海もある。カヌーのスプリントコースがある竹嶋潟もある。ちなみに、宝島社が毎年実施している「住みたい田舎」ベストランキング2020で人口10万人未満の自治体を対象とした小さなまちランキングで、にかほ市は東北第2位、全国でも31位と有名です。仙北市もにかほ市も商売人だと思います。にかほ市長は、企業経営的感覚を自治体運営に生かしているそうです。このにかほ市にモンベル直営店がオープンするということはどういうことか、それを踏まえて、当町への人の流れや観光振興、経済効果について考える必要があると思います。当町は、にかほ市とどのように差別化を図っていくつもりなのか伺います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

この場において、特定自治体の取組などについて答弁で言及することは適切でないと考えますので、その部分の答弁は控えますが、人も地域も必ず個性があり、その個性を磨く、そして伸ばすという観点で、差別化するという言葉の定義とするならば、固有の個性を持って他地域と差別化を図っていくことが大切なことは私も認識しております。

例えば山を例にした場合、当町には一般的に標高が低い山が多く存在しておりますが、これは個性の一つとなります。この個性には、初心者でも軽装備で楽しみやすい山があるという意味を包含し、人によっては、美郷町で登山用品をそろえて美郷町の山に登ろうという可能性につながります。現に、モンベル秋田美郷店にお聞きしたところ、真昼山に登山するために登山用品を購入されている方も多いと伺っております。

また、宿泊施設に関しても、県内食材をふんだんに使った秋田のごつつお御膳や手ぶらバーベキュープラン、美郷町だからこそできたJAL監修によるお膳の提供など、ほかではないメニューの提供によりお客様の確保に努めており、これも美郷町の個性を生かした差別化事例と言えるものと存じます。なお、秋田のごつつお御膳については大変好評で、リピーターも多いと伺っております。

現在の社会環境下で、穴場スポットを目的としたアンダーツーリズムが盛り上がっているとのことですが、その地域にしか存在しない景観やたたずまい、地域資源やネットワークをブラッシ

ュアップして個性を磨く、そして伸ばす認識で、今後も他地域との差別化に臨んでまいりたいと存じます。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

次の質問に移ります。

○4番（内田清文君） 最後の質問です。美郷町に水のテーマパークをです。

第2次美郷町総合計画行動計画(後期)に基づいて、水環境マイスターの養成や、清水周辺環境の整備、毎年行われてきた七滝「水の森」植樹事業、針広混交林化に向けた林道七滝山線整備など、当町は水をテーマにした様々な事業を行ってきました。事業を行ってきたということは、お金と時間を使ってきたということです。これをこれからは回収していく必要があると思います。

そこで、当町に水にまつわるアトラクションのようなものがあればいいのではないかと考えます。ディズニーランドのようなテーマパークを持ってくるのは現実的ではないと思いますが、ヨーロッパで公園に出現する移動式遊園地のようなものがあれば実現可能なのではないかと思います。

移動式遊園地は、私がイギリスに滞在していたときに初めて知ったのですが、ヨーロッパではよく見られるもので、メリーゴーランドや観覧車、スケートリンクなど大がかりなものから、輪投げや射的のようなちょっとしたものまで様々なアトラクションがあります。公園などに数か月間しか設置されないのですが、それが季節の風物詩となっており、一般の遊園地よりも集客力があるようです。美郷町の水資源を活用した、夏限定のウォーターアクティビティーが楽しめる水のテーマパークを構想してはいかがでしょうか。

先ほどの美郷町観光振興計画では、水資源を活用したものとして、仏沢ため池でのカヤックが挙げられています。しかし、ウォーターアクティビティーは、ほかにも様々なものがあります。例えば、水上バイクを使用すれば、バナナボートを曳航して絶叫マシンができますし、水上バイクのジェット気流で空を飛べるフライボード、水上バイクが作った波でサーフィンができるウエイクボードなど、内陸ではできそうもないアトラクションが可能となります。私の調べた限りでは、東北でこれらのアクティビティーができることはありません。

沖縄やハワイなどリゾート地で楽しめるアトラクションが内陸に位置する当町でできるようになれば、リゾートで滞在する観光客の増加も見込めますし、リゾートであれば1週間以上の長期滞在も見込めます。そこが気に入ればその地域のファンになる傾向があり、何度も訪問してくれるリピーターの獲得、長期滞在による経済波及効果などが期待されます。

美郷町の魅力を感じてほしいといった場合に、何かをきっかけにまずは注目される必要があ

り、そこから滞在してもらい、町内を巡り、歴史を知ることによって美郷町のファンになってもらうというのが自然な流れかと思います。美郷町を基点に周辺の観光がなされることもあるかもしれませんが。

先ほどの例を挙げたウォーターアクティビティーであれば、町内に幾つかあるため池や湖などに最低限スロープさえあればできますし、観光客が水と親しめるため、彼らの記憶の中に水の町であることを印象づけることができますので、最低限のコストで最大限のパフォーマンスを得られると思います。仏沢ため池にはスロープを整備する計画のようですので、ぜひそれ以外のため池や湖にも整備していきながら、条例等それに伴う環境の整備をしていくべきだと思います。

美郷町が秋田を越えて東北や全国において、さらにはインバウンドに対して水の郷として存在感を放つために、美郷町に水のテーマパークができるように総合的に環境を整備すべきと考えますが、これに関して町長の見解を伺います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

湧水が多い美郷町としては、水を活用した観光施策は非常に重要であると考えており、これまでまち歩きと湧水ガイドの育成や、手づくり工房湧子ちゃんでのサイダー工場見学など、水を生かした取組を行ってきたところです。また、水辺のアクティビティーとしては、仏沢ため池でのカヤック体験などを観光振興計画に盛り込んでいるところです。

水に関するアクティビティーについては、議員おっしゃるとおり、カヤックのほかにもいろいろ考えられますので、当町の自然環境を生かしたアクティビティーについて、そのプロ集団であるモンベルからもご意見等をいただきながら、今後の展開の可能性を探ってまいりたいと思います。

なお、町では、水を最大限に活用する認識の下、各地域資源の連続性やストーリー性を重視し、例えば水源涵養保安林である七滝山でのトレッキングに加え、サイクリングによる湧水巡りなど、各種アクティビティーの連携によって相乗的魅力を生むよう意識しております。

議員ご提案の水のテーマパークの整備についてですが、広く環境を整備すべきのご提案はご意見として受け止めますが、広く様々な要素を鑑みますと、夏限定のウォーターアクティビティーのテーマパークの具体化は難しいものと存じます。

町としては、冬季も含めた年間を通じたアウトドアツーリズムで美郷町を活性化できるよう、その時々状況変化も受け止めながら、観光振興計画に沿った取組を計画的に進めていくよう、

現段階で考えております。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）4番、内田清文君の再質問を許可いたします。

○4番（内田清文君） 今、夏限定のテーマパークの整備は難しいという話でしたが、観光振興計画では、先ほど申しましたように、カヤックが挙げられています。カヤックは冬されるのでしょうか。そこについてお願いします。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

私が夏限定の具体化は難しいと申し上げたのは、議員ご提案の水のテーマパークについての話です。個別のアクティビティーについて夏限定であるということをお話したわけでございません。

○議長（澁谷俊二君） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで、4番、内田清文君の一般質問を終わります。